

# 岐阜県経済の現状



平成26年8月分  
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは8月27日～29日を中心に実施し、9月8日に作成。

# 景気動向・製造業

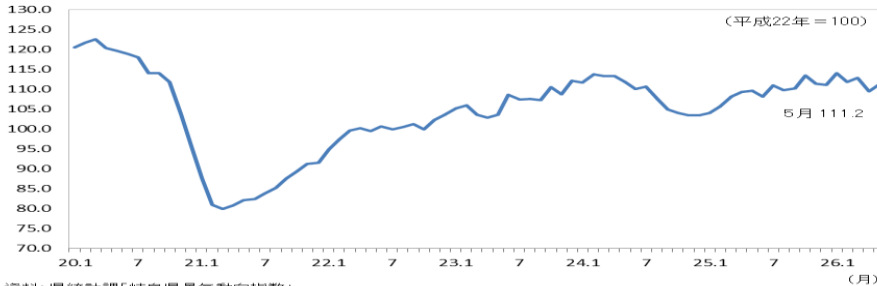
○5月の景気動向指数(CI一致指数)は、111.2と前月より1.7ポイント上昇した。

○7月の県内中小企業の景況感は、マイナス20と前月より9ポイント悪化した。

○6月の鉱工業生産指数は、92.1と前月比1.8%低下した。

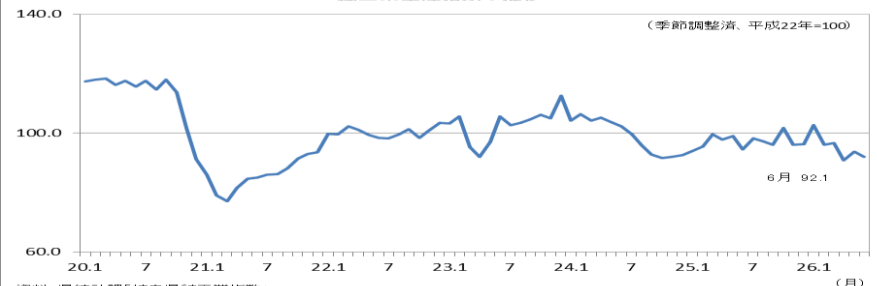
○平成26年4-6月期の売上高は、製造業、非製造業ともに減少した。

岐阜県景気動向指数(CI)の推移



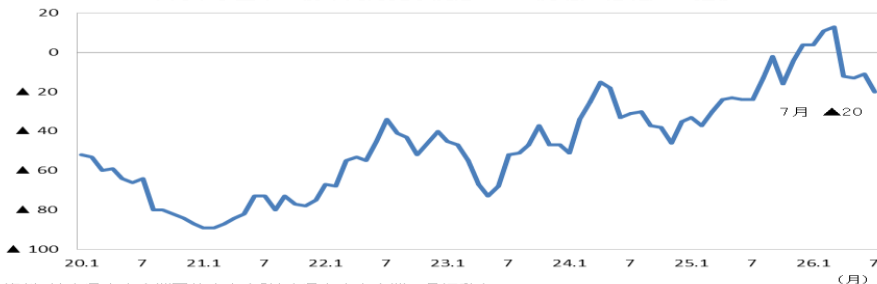
資料: 県統計課「岐阜県景気動向指数」

鉱工業生産指数の推移



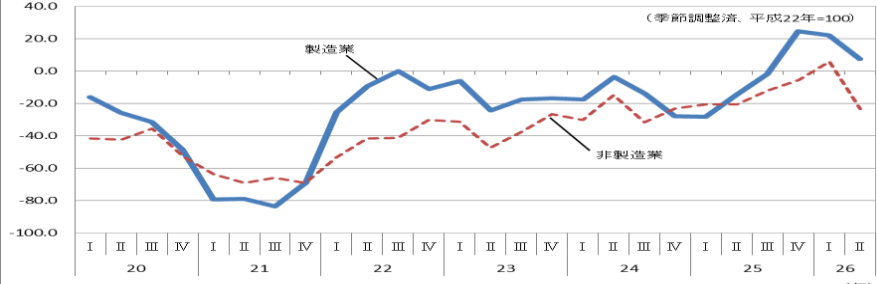
資料: 県統計課「岐阜県鉱工業指数」

県内中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



資料: 岐阜県中小企業団体中央会「岐阜県内中小企業の景況動向」

県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移



資料: (公財)産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

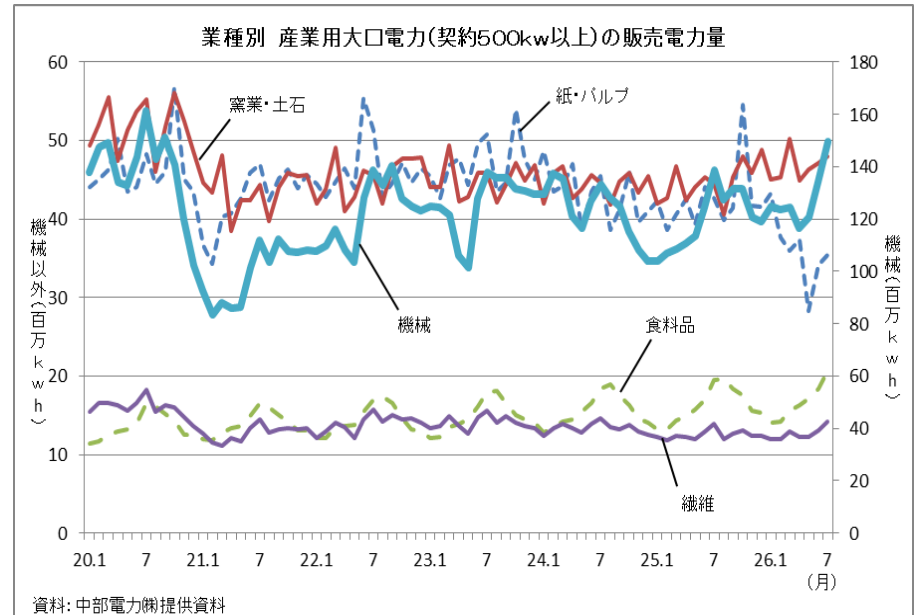
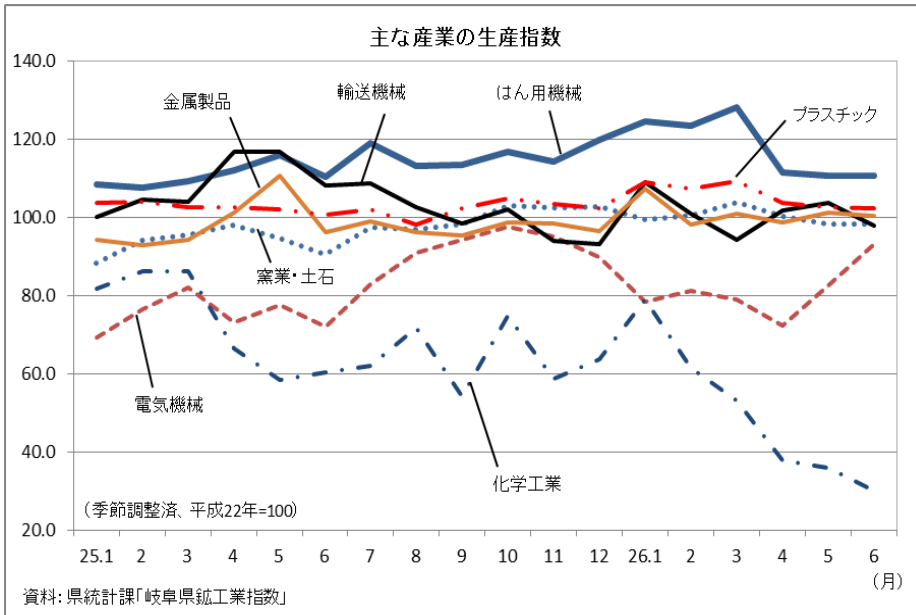
## 現場の動き

- ◆売上は前月比9.9%増、前年同月比7.2%増。
- ◆堅調から順調に転じている。前月比でも10%程度売上が伸びている。(以上、輸送用機械)
- ◆8月はお盆休みもあったことから工場稼働日数も少なく、売上、受注は減少。(電気機器、非鉄金属)
- ◆受注量、売上とも対前年同月比で増加、対前月比で減少。(生産用機械)
- ◆8月は稼働日数自体は少ないが、受注状況としては7月と横ばい。小型機械関係が順調。(はん用機械)
- ◆年度があけても受注は増えており、先月に引き続き好調を維持している。(金属製品)
- ◆受注量、売上ともに対前月比は増加。対前年同月比で変わらず。(プラスチック)

## 製造業-2(業種別)

○6月の鉱工業生産指数は、輸送機械、化学工業を除き、主な産業で前年を上回った。また、電気機械を除いた主な産業で前月より減少した。

○7月の工場向け電力販売量は、紙・パルプを除くすべての産業において、5ヶ月連続で前年を上回った。

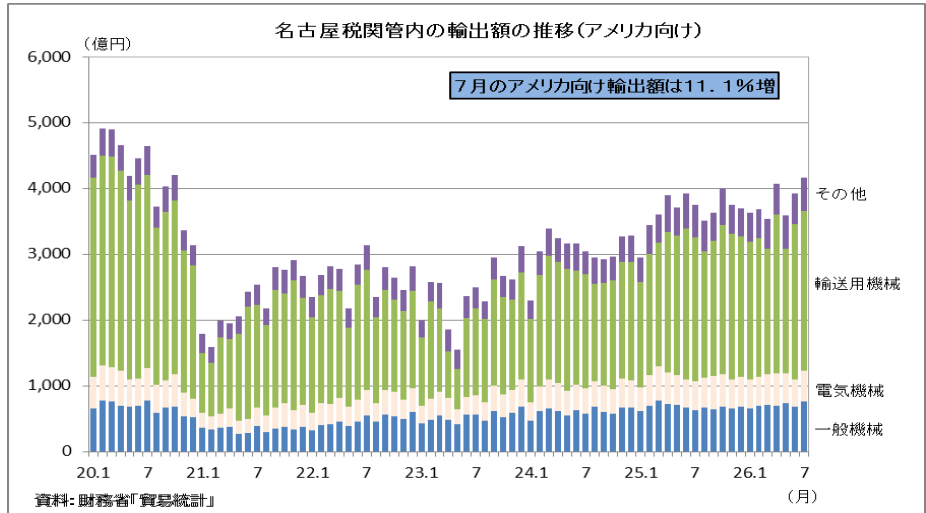
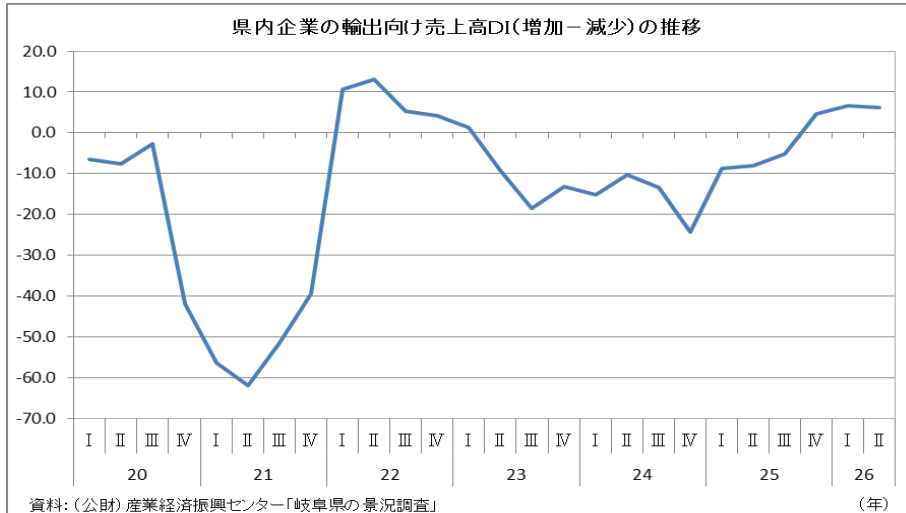
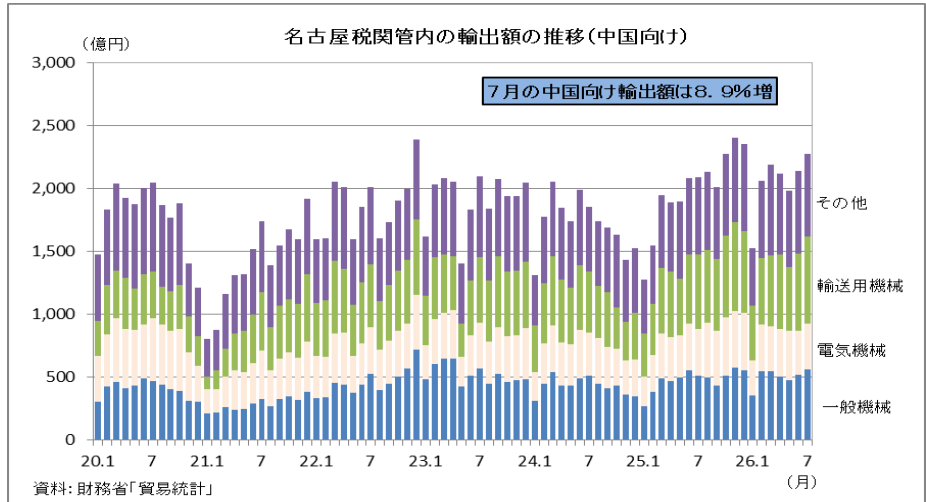
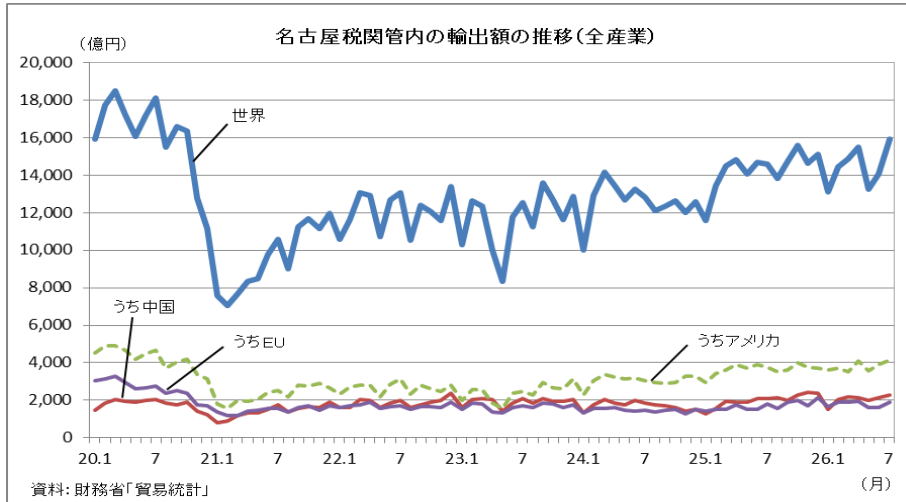


### 現場の動き

- ◆ 製造コスト増によりファッション業界は大変厳しい状況。(アパレル)
- ◆ 売上、受注は落ちてきている。2月、8月は商品入れ替え時期のため、例年業況は悪くなるが、今年は特に落込みが激しい。例年の1/3程度まで落ち込んでいる。(陶磁器)
- ◆ 4月以降、受注状況は少し厳しい。(刃物)
- ◆ 売上は減少している。冷夏で夏物製品も売れ行きは良くない。(食品加工)
- ◆ 景況感は悪化している。特に、今シーズンの提灯の販売結果が良くなかった。(紙)
- ◆ 6月から対前年比の売上が少し落ちてきた。回復時期は不透明。
- ◆ 対前年比の売上は10%を上回っているが、ここ数ヶ月、受注が落ち着いてきた。(以上、木工)

# 輸 出(名古屋税関管内)

- 7月の輸出額は15,913億円で、前年同月比9.2%増と前年を上回った。
- 中国向けは、電気機械が減少したものの、輸送用機械とその他が増加し、前年同月比8.9%増と16ヶ月連続で前年を上回った。
- アメリカ向けは、すべての産業で増加し、前年同月比11.1%増と3ヶ月ぶりに前年を上回った。

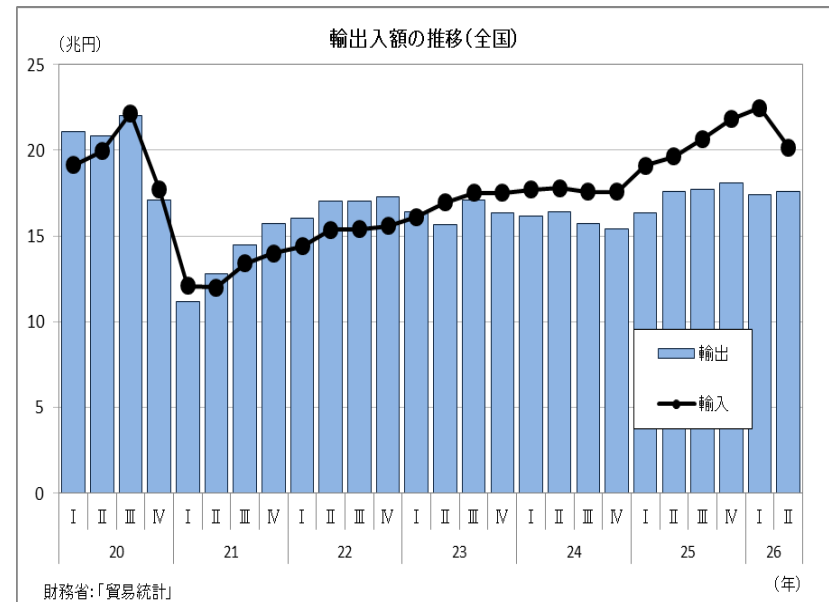


## 円安・原油高騰による影響について

- ◆原料の輸入比率が高く、仕入高が利益を圧迫し続けている。燃料高による水道光熱費の高止まりにて製造コストを押し上げている。(食品製造)
- ◆燃料の価格高騰によるマイナスと、北米を中心とした自動車の輸出が好調による受注増のプラスと両面ある。
- ◆為替の影響により、アルミの原料メーカーからの大幅な値上げに対応せざるを得ない。(以上、輸送用機械)
- ◆燃料費の上昇による影響は限定的である。(生産用機械・はん用機械)
- ◆LPガス燃料費について、値上がり落ち着いた状況であり、8月は対前月で横ばいの状況である。(金属製品)
- ◆ガス代、土代、釉薬代、パッケージ代が高騰している。また、運賃にかかる費用にも影響が出ている。商品の価格帯は決まっているため、経費がかさんだ分だけ、利益を圧迫することになる。(陶磁器)
- ◆昨年夏以降、プラスチック製のフィルムやコップなどの仕入先から10%ほどの値上げがなされた。それに続いて紙の原料についても同様の割合で値上げが始まっている。(紙)
- ◆外国材が主原料のため、円安によるコスト高が収益を圧迫している。(木工)
- ◆燃料費は依然高いので厳しい。(運輸)
- ◆中国製品の仕入価格、輸入ワインの値段が上がっている。(多治見商店街)

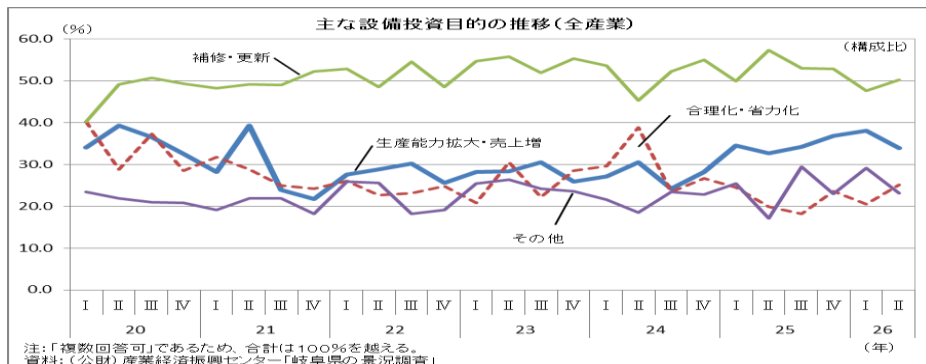
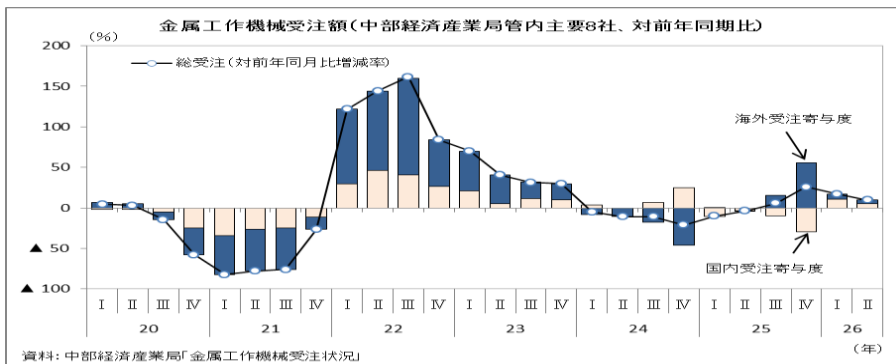
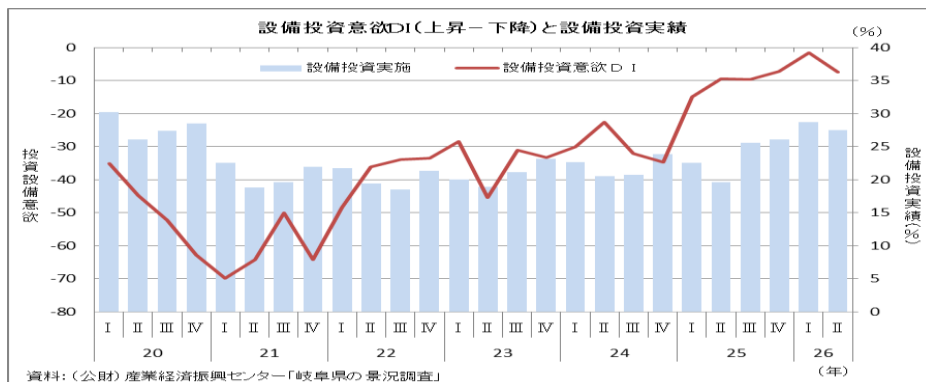
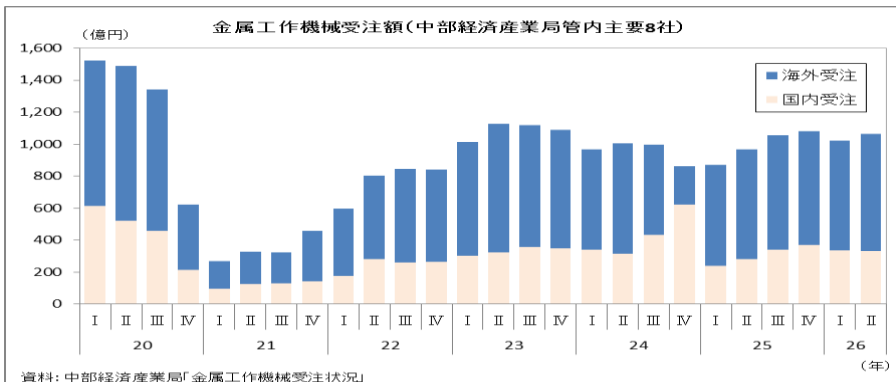
## アベノミクスの効果・影響について

- ◆景気が上向きになっていると感じられる。自動車関連が好調であるが、年末に向かっては下向くと予測している。
- ◆補助金について、様々なメニューが出ているが、ほとんどは平成28年3月迄で、補助金がなくなったときの反動が心配される。(以上、輸送用機械)
- ◆直接的な影響を受けていないが、もし、政府が何も手を打っていないならば、さらにひどい状況になっていたのではないかと。全体的には底上げになったと考えている。(刃物)
- ◆建設業、不動産業が比較的好調である。(金融機関)
- ◆アベノミクスの効果は感じられない。(食品製造、プラスチック、地場産業全般、商店街全般)



# 設備投資

- 平成26年4－6月期の設備投資意欲は3期ぶりに低下、設備投資実績は4期ぶりに減少。「生産能力拡大・売上増」といった前向きな設備投資は減少し、「補修・更新」や「省力化・合理化」が増加。
- 傾向としては、設備投資意欲は上昇し、設備投資実績とも増加している。



## 現場の動き

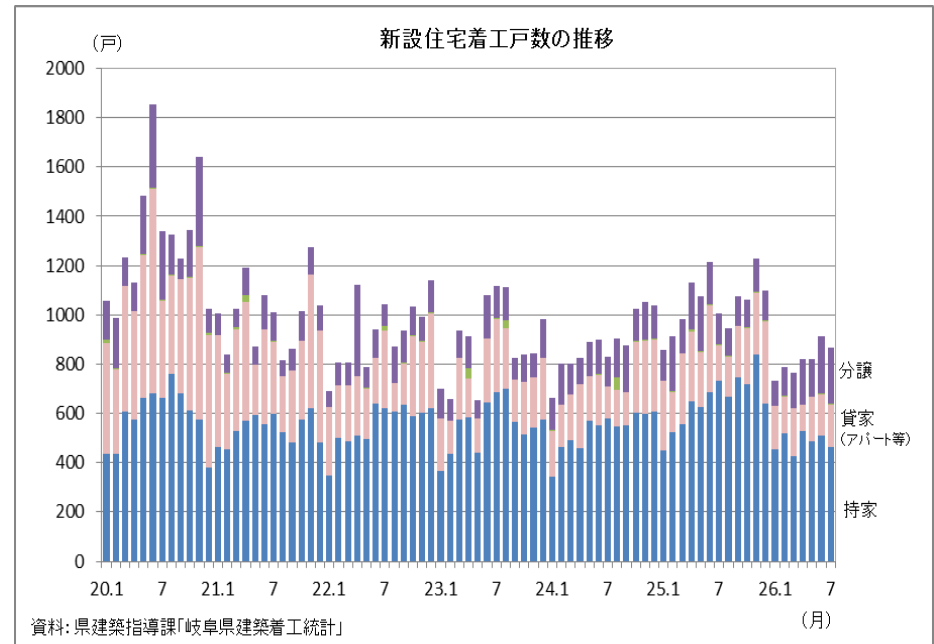
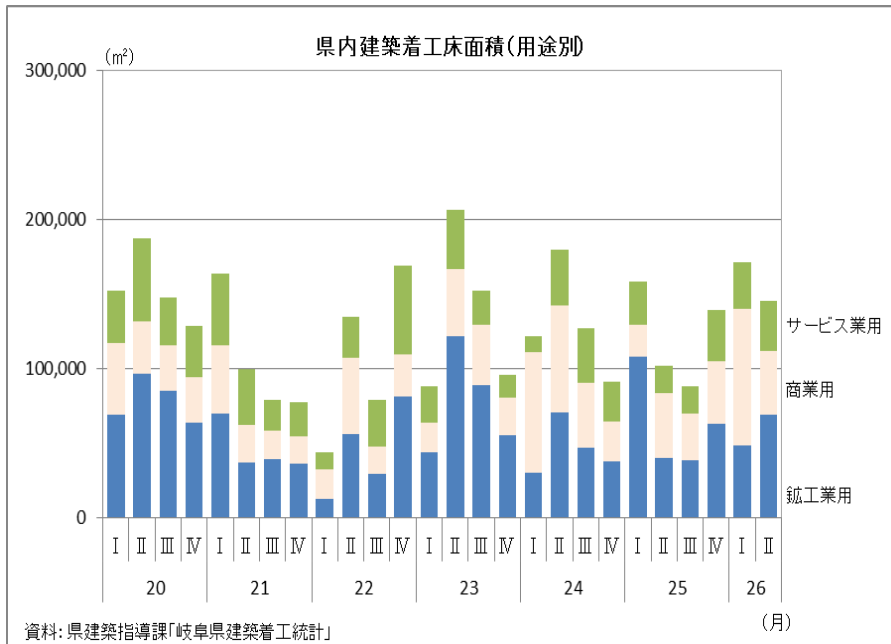
- ◆新工場が竣工。(食品製造)
- ◆カーエアコン用部品製造の対応のため、工作機械や検査測定器等を導入し、ラインを増設する。
- ◆大きな設備投資はない。建物の修繕や機器の修理にとどまる。(以上、輸送用機械)
- ◆大きな設備投資は来期に行う予定であったが、業務量増加に合わせ、今期の設備投資を検討中。(金属製品)
- ◆製品の品質向上のため、新規に成形機の設備投資を行った。(プラスチック)



# 住宅・建築投資

○平成26年4－6月期の建築着工は、商業用で若干減少したものの、鉱工業、サービス業で大きく増加したことにより、全体では前年同期比42.5%増となった。

○7月の住宅着工は、貸家、分譲ともに増加したものの、持ち家が6ヶ月連続で減少し、全体では前年同月比13.9%減と7ヶ月連続で前年を下回った。

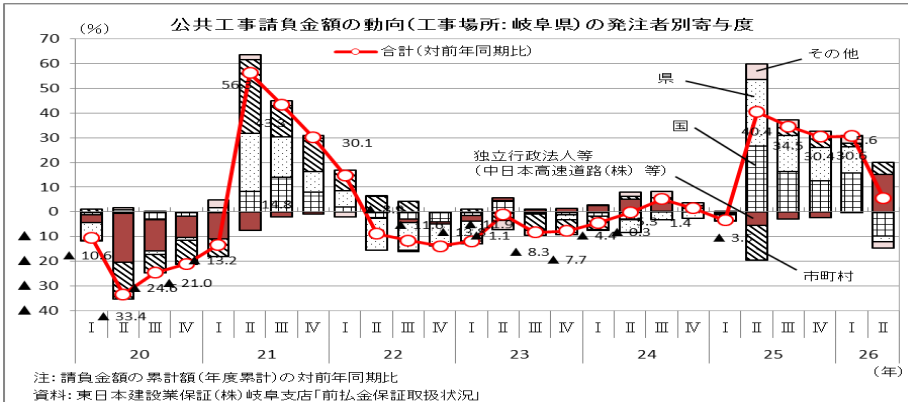
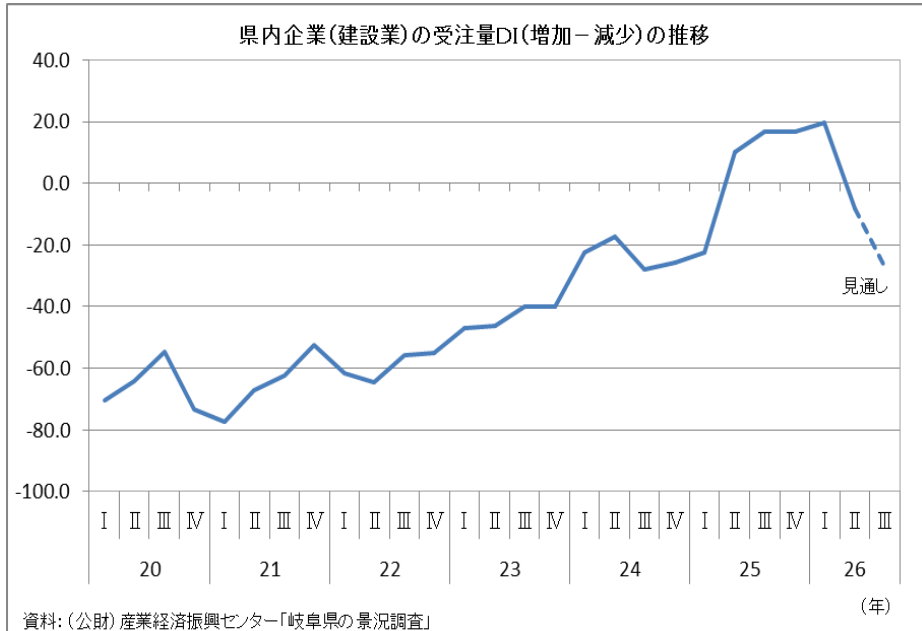
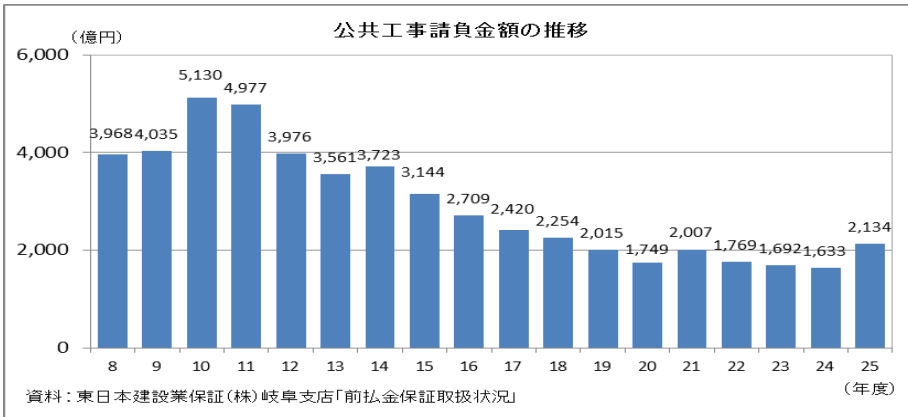


## 現場の動き

- ◆商品のラインナップ(高級路線、太陽光パネル付など)を増やすなどしており、回復見込み。
- ◆ほぼ横ばいの実績を確保しているが、先行きが不透明な状況。(以上、住宅建設)
- ◆8月の受注量は前月より減少し、前年比82.5%となる見込み。
- ◆7月よりも悪く、9月も悪い見込み。予想よりも木材が動かない。(以上、製材)
- ◆原木の出荷量は少なかった。プレカットは一般住宅用ではなく、公共用が増えてきた。(国産材市場)
- ◆山からの出材料は平年並み。A材(製材用材)は需要が弱い状態が続き、B材も合板業界は減産継続により、需要は弱い。一方、C・D材(チップ・燃料用材)需要に対し供給が不足している。(森林組合連合会)

# 公共工事

- 平成25年度内に県内で実施された公共工事請負金額は2,134億円で、リーマンショック以前の水準まで回復。
- 平成26年4-6月期の公共工事請負金額は、前年同期比5.6%増と5期連続で前年を上回った。国、県からの発注は減少したが、独立行政法人等、市町村からの発注が増加。



## 現場の動き

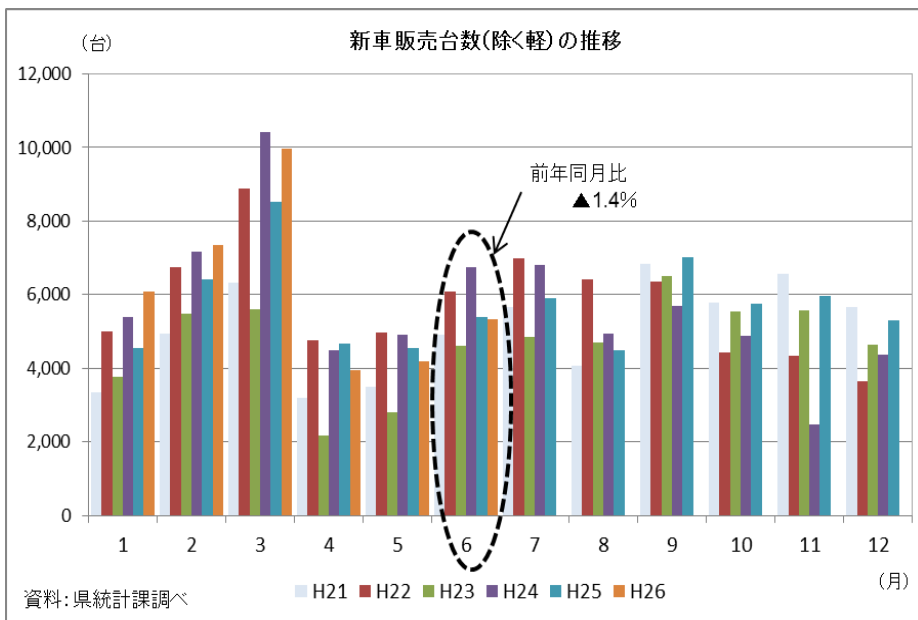
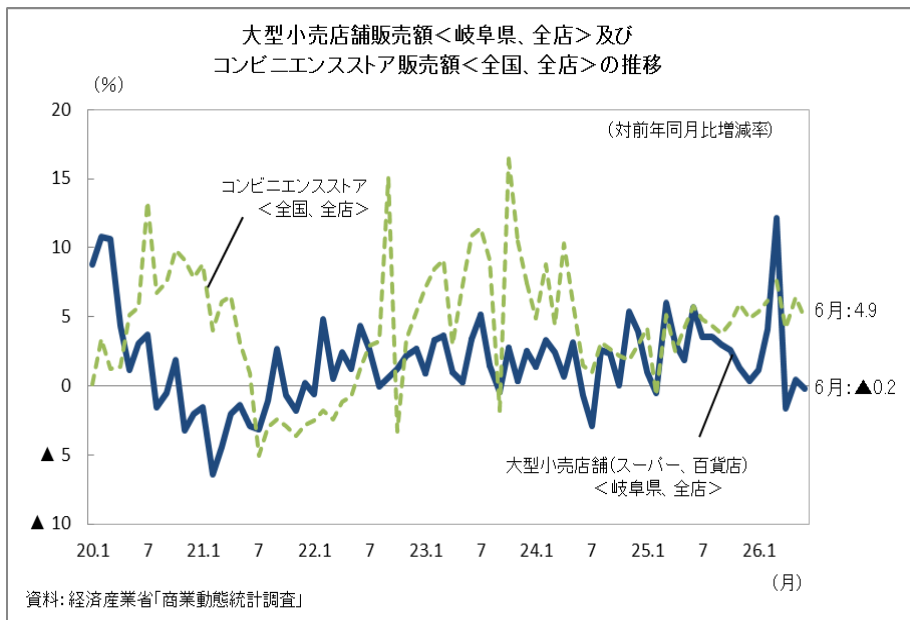
- ◆公共工事の受発注量としては、昨年度並みで手持ち工事量としては多くはない。各社発注待ちの状況で技術者の不足感はないが依然、ダンプ等の輸送手段についての不足感は続いている。(業界団体)



# 個人消費(流通・小売)

○7月の大型小売店販売額は、前年同月比  
0.2%減とマイナスに転じた。

○7月の自動車販売(除く軽)は、前年同月比  
1.6%増と4ヶ月ぶりに前年を上回った。



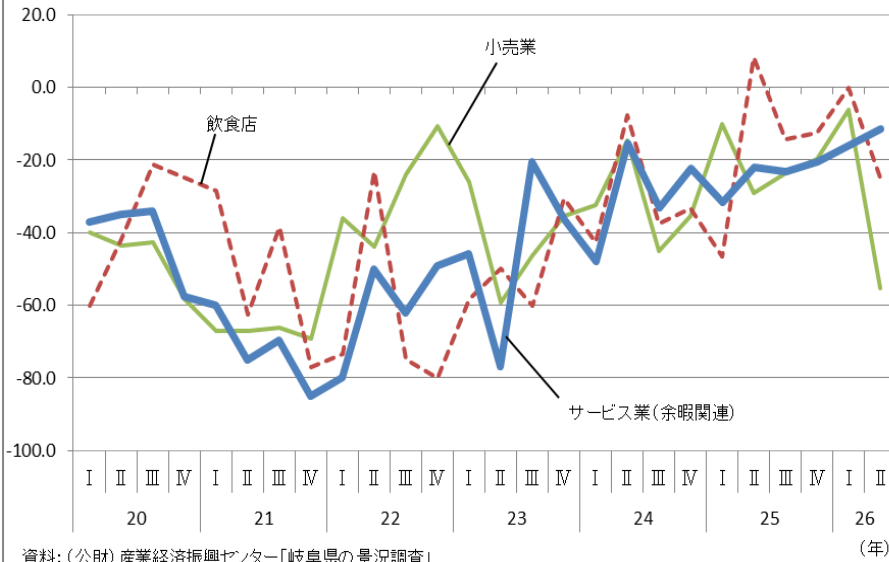
## 現場の動き

- ◆客数は前年を下回ったが、想定範囲内。売上は前年並み(衣料品は前年を上回り、食品は前年並み)であった。
- ◆売上、客数ともに前年同月比104%。衣料が不調で、食品、住宅関連が好調。衣料と食品等ほかの部門との乖離が大きい。天候不順により、リゾート部門も悪かった。
- ◆客数は前年同月比94%、売上は同99%と前年割れだが、6~8月にかけて少しずつ上昇している。8月下旬は天候不順の影響でかなり悪かった。部門別の売上は、衣料94%、住宅関連94%、食料品101%であった。
- ◆客数は前年同月比95%、売上は同104%。衣料が好調であった。(以上、大型小売店)
- ◆雨の影響で客数は前月より減少したが、お盆の影響で売上は前年同月比で同じくらいである。(食品スーパー)
- ◆7月と比較すると8月の景況は厳しかった。天候不良により、特にレジャー系の商品の売れ行きが悪かった。アパレル商品の売上は10%程落ちている。(スポーツ用品)
- ◆売上は前年比で同じか、若干上回るくらい。8月は天候不良の影響によりエアコンの売れ行きが下がった。(家電)

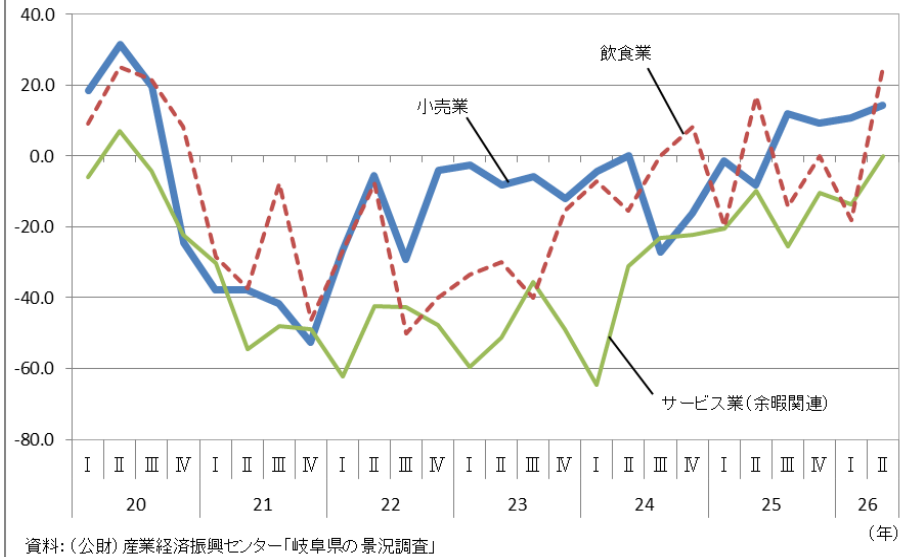
# 個人消費(流通・小売)－2

○平成26年4－6月期の小売業、飲食業について、売上高は減少したが、販売価格は上昇した。  
サービス業については、売上高は増加し、販売価格も上昇。

県内企業の売上高DI(増加－減少)の推移



県内企業の製品販売価格DI(上昇－下降)の推移



## 現場の動き

- ◆ 全般的に天候不順で人通りが少なかった。8月の売上は婦人服が前年同月比70%、飲食店が同60%、メガネ店が同100%。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆ 天候不順や蒸し暑さで人通りが少なかった。8月の売上は和菓子店が前年同月比103%。(大垣市商店街)
- ◆ 天候不順で人手が少ない。8月の売上は土産・雑貨店が前年同月比105%、衣料品店が92%。(高山市商店街)
- ◆ 8月の売上は、酒類販売が前年同月比105%、子ども服は微減。(多治見市商店街)
- ◆ 雨の日が多く、館全体として来館者が前年を下回る状況。物販全体は、売上、客数ともに前年同月を上回ったが、婦人服は売上、客数ともに前年同月を下回った。飲食は、売上、客数ともに前年同月比で減となった。(アクティブG)
- ◆ 8月の1日あたり1店舗平均売上は前年同月比95%、同客数も同95%。(コンビニ)
- ◆ 売上は前年同月比微増。受注案件が増加しているため、景気が良くなっていると感じる。(運輸業)

## 4月からの消費税増税の影響について

- ◆大きな影響はない。(食品製造、輸送用機械、プラスチック)
- ◆反動減はあったが、大分回復してきたように感じる。受注も増え24時間体制で対応している。(輸送用機械)
- ◆特に自動車の反動減と消費マインドの低下が大きく、前年と比較して受注10%減の部品が多い。(生産用機械)
- ◆消費税に市場環境は厳しくなったと感じる。10%になると一層過酷になることが予想される。(アパレル)
- ◆消費税率引上げにより、客が商品を買って控えている部分もある。(陶磁器)
- ◆3月の駆け込み需要、4月の反動もそれほど大きくはなかったが、5月以降に多少反動が来た感じがする。(刃物)
- ◆4月以降に一時的な受注の低下がみられたものの、6月頃には持ち直した。
- ◆駆け込み需要もこちらが予測するほどではなく、反動もなかった。(以上、紙)
- ◆消費税の駆け込み需要の反動が少し出てきたようだ。(木工)
- ◆4、5月に比べて消費動向はよくなっているものの、先行きは不安定である。(大型小売店)
- ◆消費税率引上げの影響は戻ってきていない感じである。客単価は上がっているが、客数は減っている。消費税率引上げに伴い、消費者は生活防衛に走っており、購買意欲が高い人は少ない感じがする。(スポーツ用品)
- ◆消費税率引き上げによる反動減はあったが、現在は対前年同月比で同じか若干上回る売上である。(家電)
- ◆それほど関係ないと思っていたが、消費者は買い控えており、影響がだんだん出てきている。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆増税後の実質所得減少に対する懸念から、消費マインドは低下傾向にある。(コンビニ)

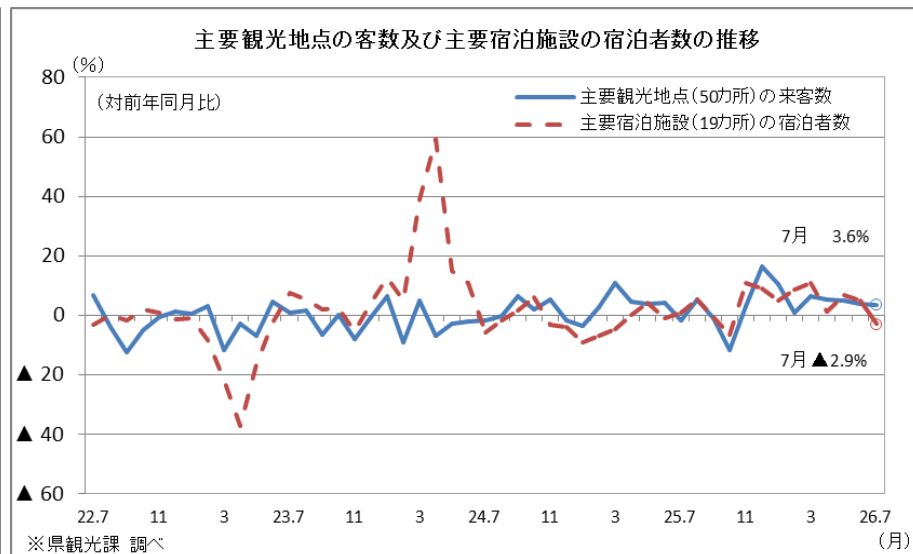
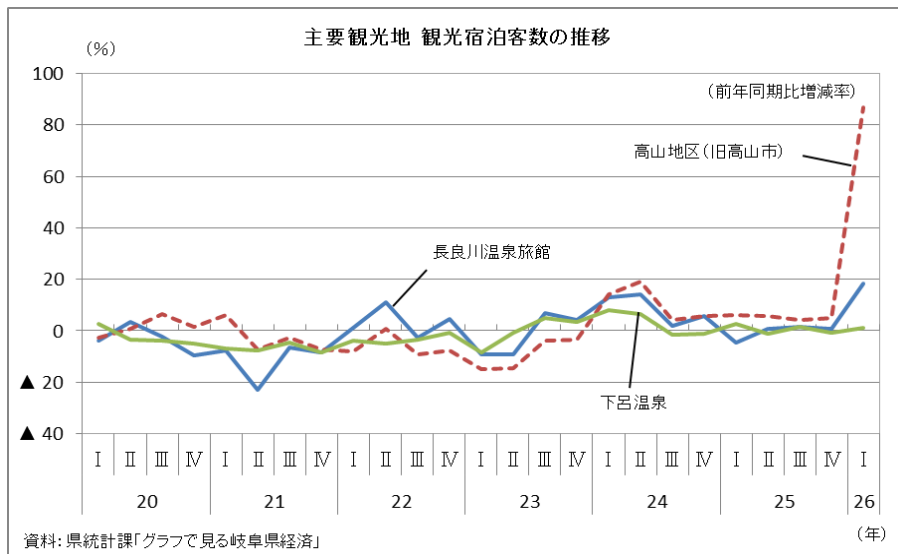
## 賃上げの状況について

- ◆パート社員に続き、9月から社員給与の賃上げを予定している。(食品製造)
- ◆4月分の給与で賃上げを行なった。(輸送用機械、プラスチック)
- ◆4月より定期昇給の率を上げており、実質給与増となっている。(金属製品)
- ◆4月より若年層に対する支援のため、手当等により給付を行っている。(プラスチック)
- ◆社員の生活にも影響が出るため、役員等の給料を削って、社員を対象に賃上げを実施した。(陶磁器)
- ◆6月に平均1.5%ベースアップした。(紙)
- ◆店舗においては、各店の経営者の判断に応じて対応しているが、目立って大きく賃金の変更はない。(コンビニ)
- ◆例年並み。(輸送用機械、プラスチック、食品加工)

# 観光

○平成26年1-3月期の観光(宿泊)客数は、長良川温泉旅館が前年同月比18.4%、高山地区(旧高山市)が同86.7%、下呂温泉が同1.3%と全ての地区で前年を上回った。

○7月の主要観光地における観光客数は、前年同月比3.6%増と9ヶ月連続で前年を上回った。一方、主要宿泊施設における宿泊者数は、同2.9%減と9ヶ月ぶりに前年を下回った。

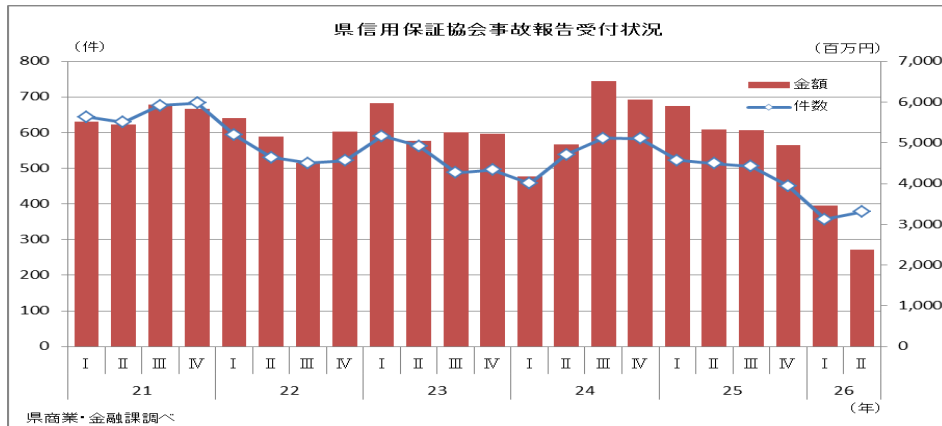
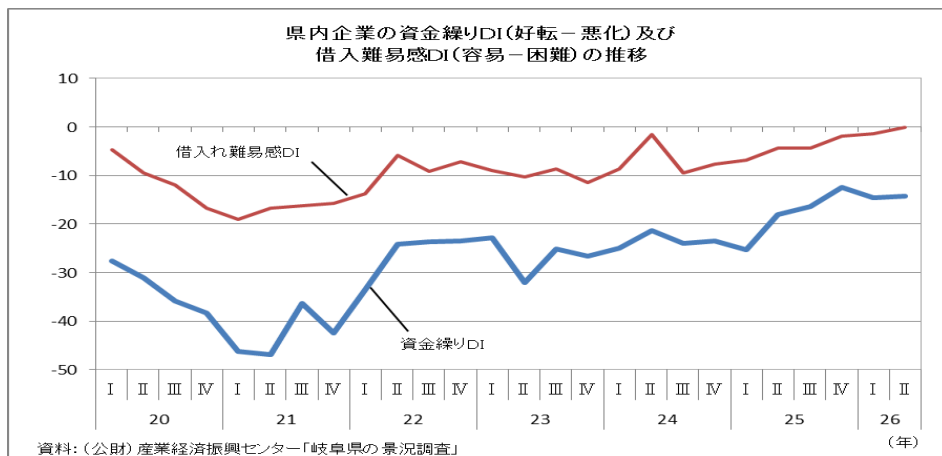
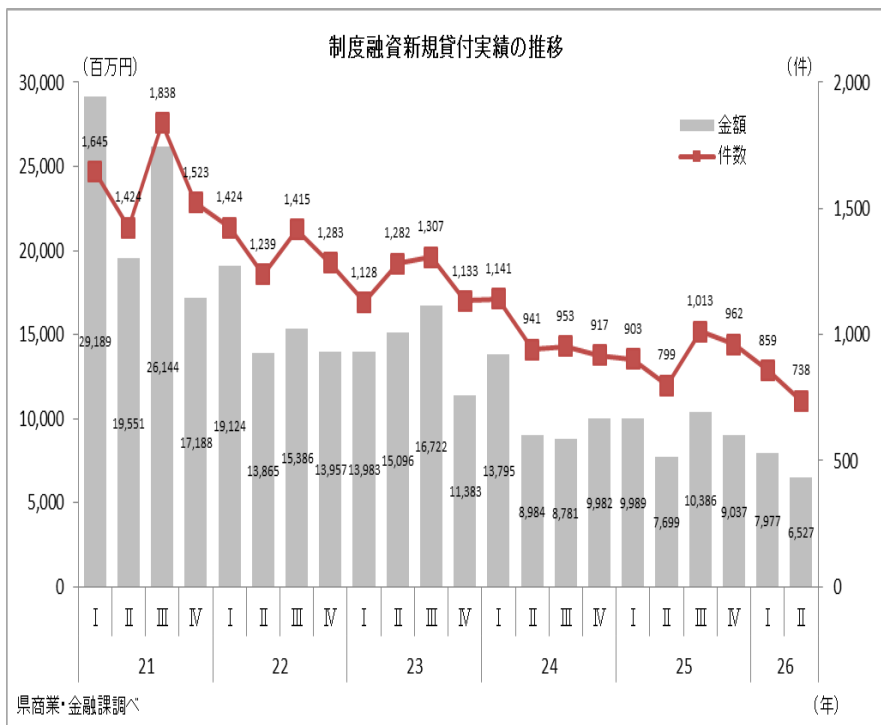


## 現場の動き

- ◆今年(2026年)は伊勢神宮の式年遷宮関係の宿泊がない分、インターネットでの個人客獲得に繋がっている。
- ◆中国からの来客は変わらず多い。(以上、岐阜市内の宿泊施設)
- ◆8月の宿泊は、スポーツ団体や宴会後の宿泊が増加している。(美濃加茂市内の宿泊施設)
- ◆インターネットでの予約が伸びてきている。(恵那市内の宿泊施設)
- ◆8月は団体が少ないが、インターネットを通しての個人予約が増加している。(下呂市内の宿泊施設)
- ◆高速道路の休日割引率縮小、ガソリン等燃料費高騰の、個人旅行客への影響は少なからずある。
- ◆インバウンドはピークが過ぎて、秋シーズンが次の山場だが、東南アジア系はまだ根強い。
- ◆宿泊の商品力強化により、個人客、自家用車で宿泊客は増加している。(以上、高山市内の宿泊施設)

# 資金繰り

- 新規融資実績は平成21年秋口から減少傾向にある。
- 資金繰りについては回復基調に一服感があるが、借入難易度は緩やかに改善している。

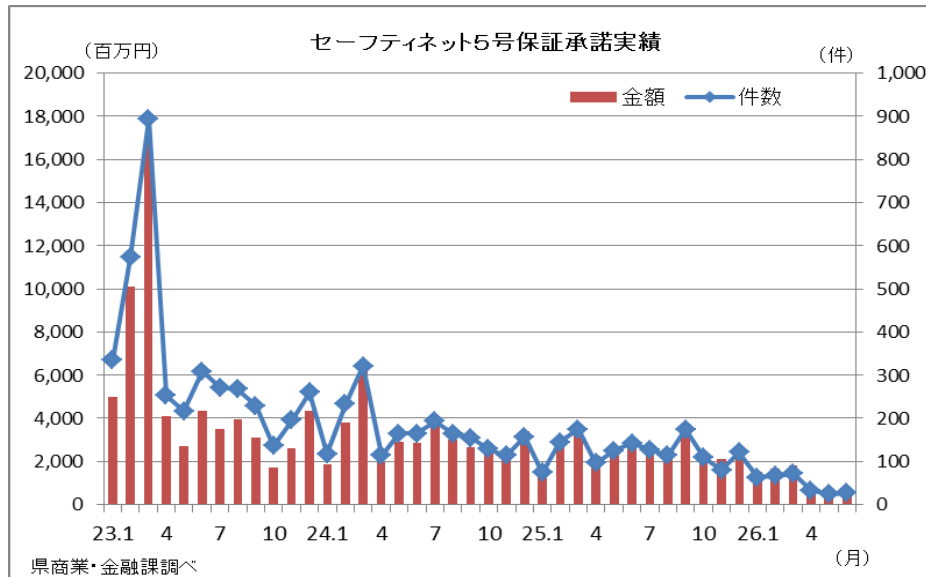
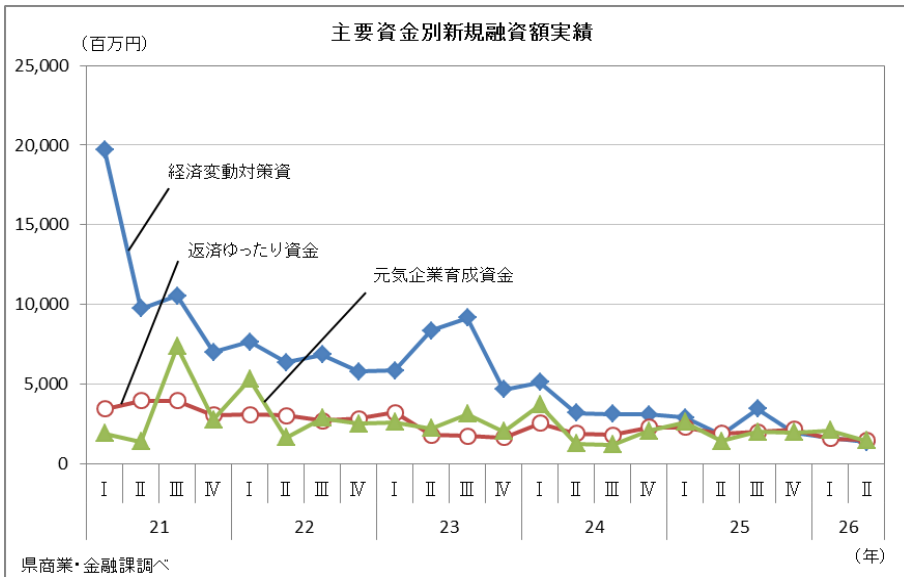


## 現場の動き

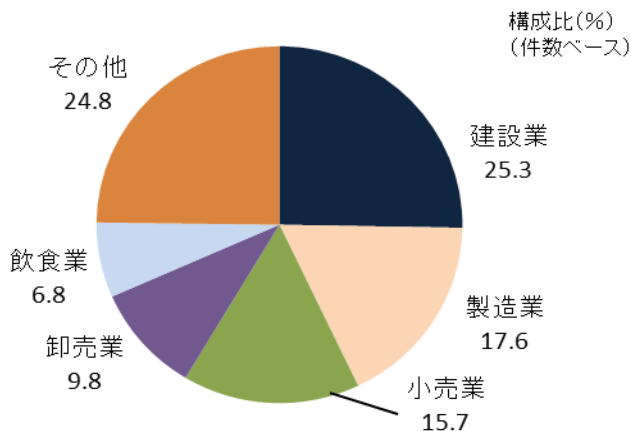
- ◆大企業への融資は増加しているが、中小企業への融資はほぼ横ばいである。
- ◆中小企業の資金需要は微増であり、設備投資も引き続き限定的である。
- ◆介護施設等の建物への設備投資はあるが、機械等の設備投資はまだまだ控えている模様。
- ◆賃貸用アパートや太陽光発電に係る設備投資が多い。(以上、金融機関)

# 資金繰りー2

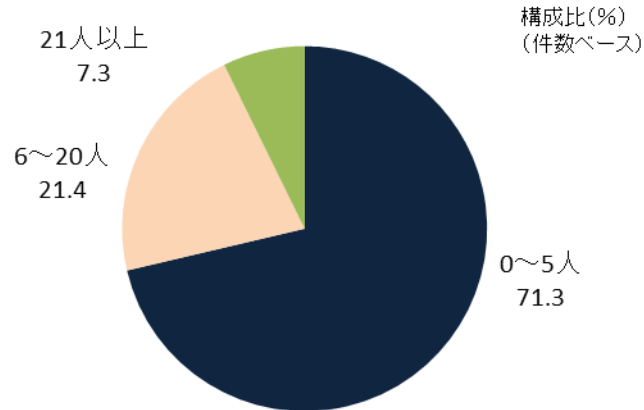
- 資金繰りを改善するための運転資金である「経済変動対策資金」の融資実績は、21年秋以降減少傾向が続いている。
- 建設業・製造業の利用が多く、従業員5名以下の零細企業が7割を占める。



県制度融資 利用企業(業種別)  
(H26年4月ーH26年7月計)



県制度融資 利用企業(従業員規模別)  
(H26年4月ーH26年7月計)



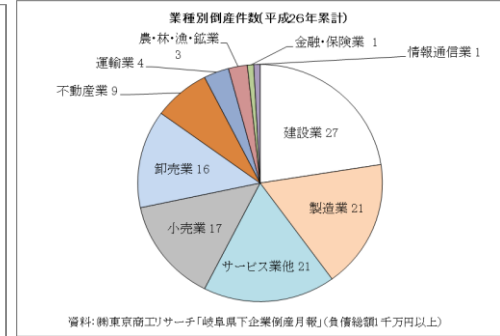
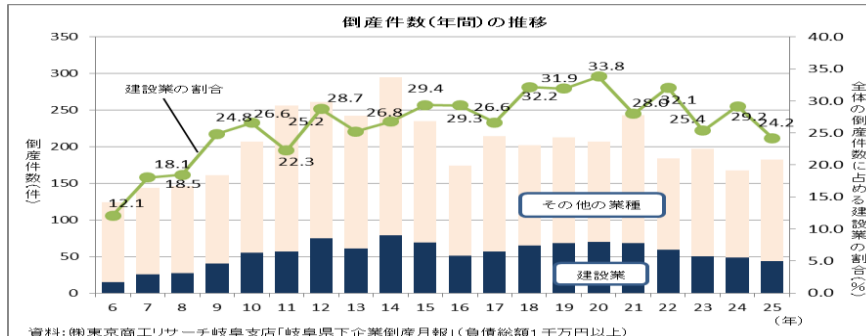
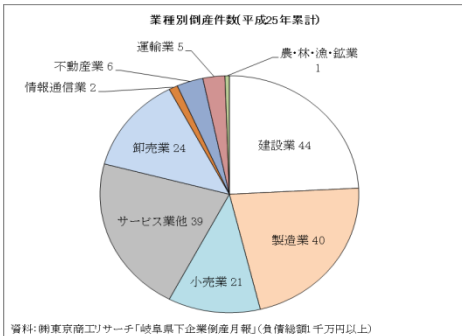
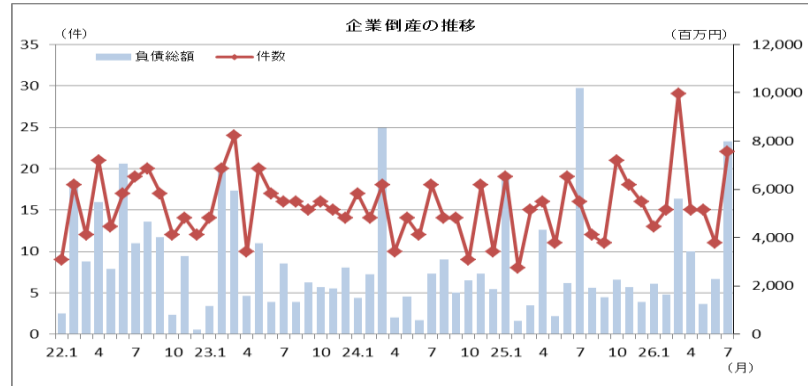
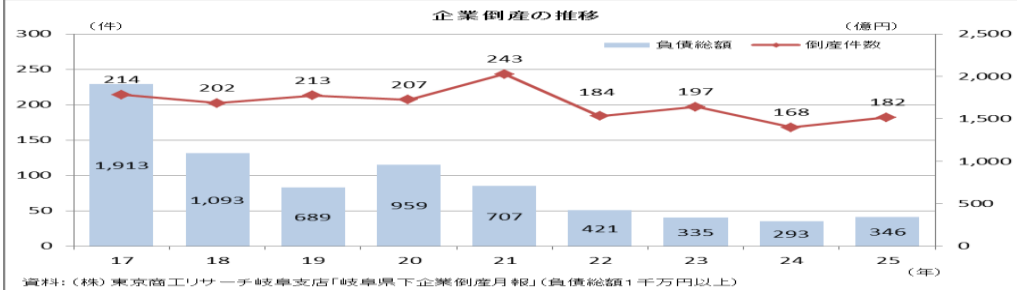


# 倒産

○平成25年の倒産件数は182件となり、前年比14件増加。負債総額は346億円で2年ぶりに増加に転じた。

○業種別では、建設業と製造業で約5割を占めている。

○7月の倒産件数は前年同月比6件増、前月比11件増の22件となった。



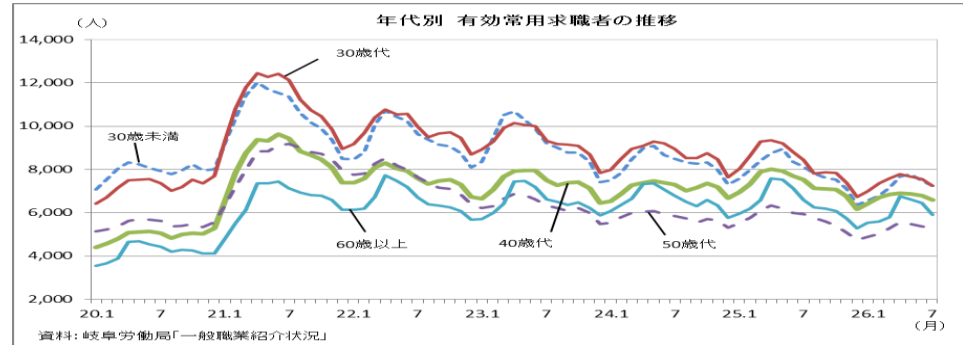
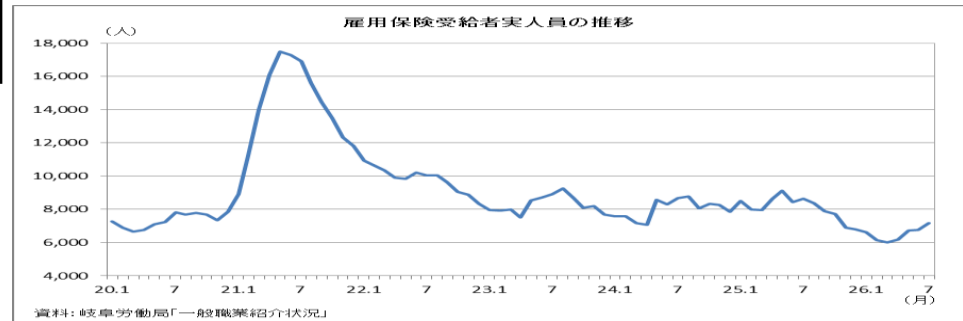
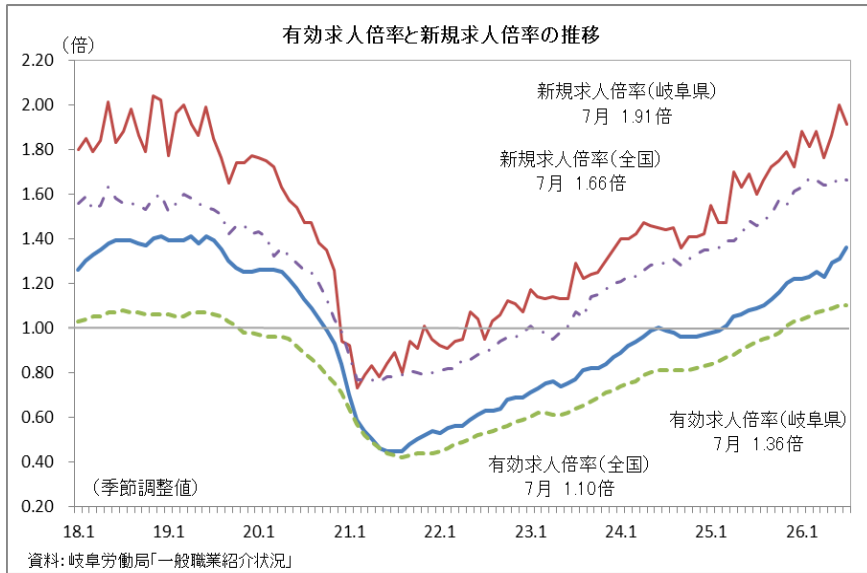
## 専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆7月の県内倒産件数は22件、負債総額は79億9400万円で、倒産件数は前年同月比6件増、前月比11件増、負債総額は前年同月比21.5%減、前月比249.2%増となった。
- ◆業歴10年以上と比較的業歴の長い企業が過半数を、10人未満の中小零細企業が全体の95.4%を占めた。
- ◆国内企業の業績動向は大手中堅企業と中小零細企業で二極化しており、消費税増税に伴う反動減や原材料価格の高騰、人手不足が懸念材料となっており、コスト上昇が中小零細企業の新たなリスクとなっている。景気拡大の状況下、波に乗れない企業や経営改善の進んでいない企業を中心に低収益に陥り資金調達について円滑に進まないことも想定され、秋以降、今後、倒産件数が増勢に転じる可能性が否めない。

# 雇用

- 7月の有効求人倍率は1.36倍と前月より0.05ポイント上昇。
- 7月の新規求人倍率は1.91倍と前月より0.09ポイント下降。

- 7月の雇用保険受給者人員は前年同月比16.8%減と13ヶ月連続で前年を下回った。

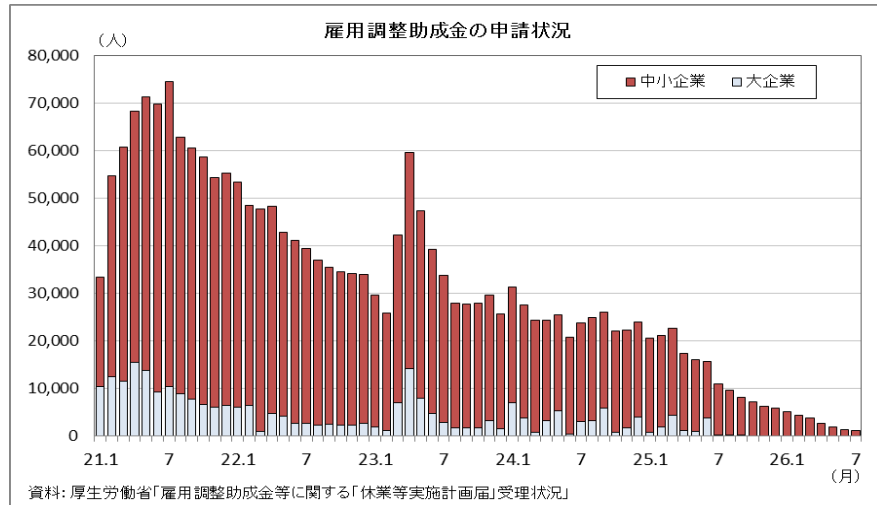
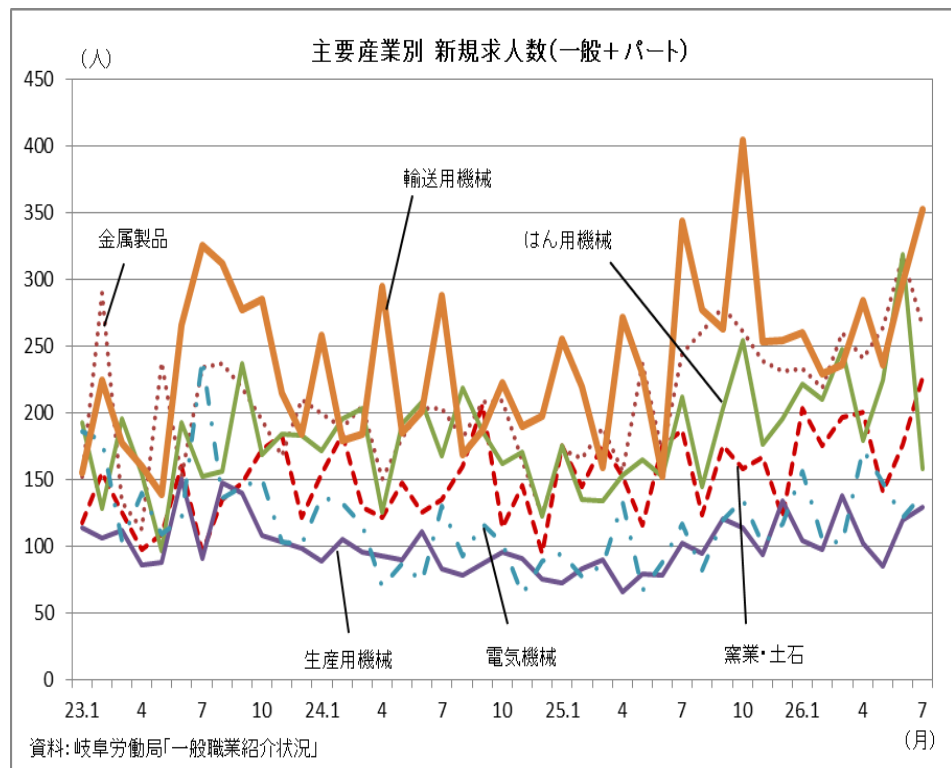
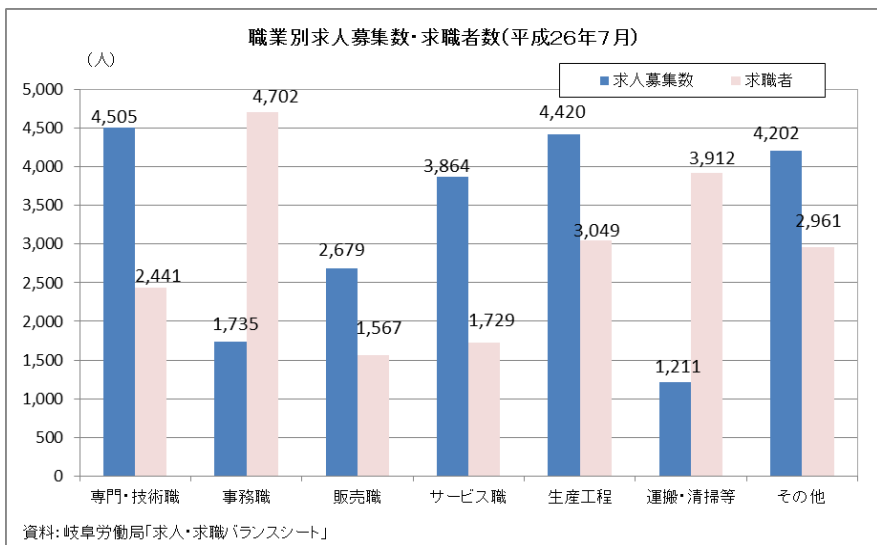


## 現場の動き

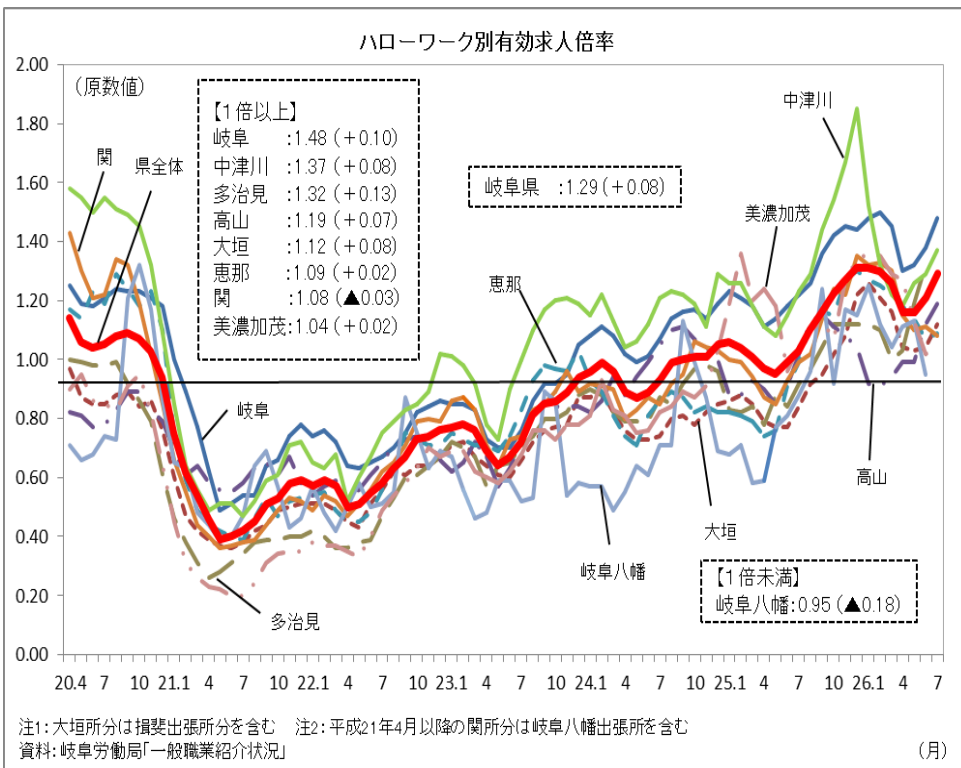
- ◆ 周辺企業の採用活動が活発化し、欠員の補充に支障が出ている。応募者が減少している。(食品製造)
- ◆ 期間工の確保が困難な状況で、新ラインの立上げにも支障をきたしている。(輸送用機械)
- ◆ 受注増加に伴う人材不足を派遣社員で対応しているが、派遣社員も完全には充足していない。(金属製品)
- ◆ 求人の募集をしているが、問い合わせや応募はない。(食品スーパー、家電、運輸)
- ◆ 製造ラインを中心に人手不足が顕在化、それに伴い事務系部門も人手不足感が出てきている。求職者は自身の働き方や職種にこだわって探している傾向が見受けられる。
- ◆ 8月に入ってから、求人数は落ち着いている。企業の動きも緩やかで、9月以降の動きも加速なし。製造現場では作業員の求人数は変わらず多いが、自動車業界へと流れており、採用まで至っていない。(以上、人材派遣業)

# 雇 用(職業別)

- 「事務職」や「運搬・清掃等職」では、求人募集数と求職者数のギャップが大きい状況が続いている。
- 7月の新規求人数は、金属製品・はん用機械を除く主な産業で前月より増加し、はん用機械を除く主な産業で前年を上回った。
- 雇用調整助成金は震災直後に急増したが、現在は減少傾向。



# 雇用(地域別)



## <ハローワーク岐阜>

- ◆ 求人者数は横ばい、求職者数は減少。
- ◆ 雇用保険受給者数は減少。

## <ハローワーク大垣>

- ◆ 求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆ 雇用保険の受給者数は減少。

## <ハローワーク多治見>

- ◆ 求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆ 雇用保険受給者数は減少。

## <ハローワーク高山>

- ◆ 求人者数は横ばい、求職者数は減少。
- ◆ 雇用保険受給者数は減少。

## <ハローワーク恵那>

- ◆ 求人者数、求職者数はともに増加。
- ◆ 雇用保険の受給者数は増加。

## <ハローワーク関>

- ◆ 求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆ 雇用保険の受給者数は減少。

## <窓口の様子>

- ◆ 大垣、恵那、美濃加茂は先月と同じくらい、それ以外はやや空いている。

## <ハローワーク美濃加茂>

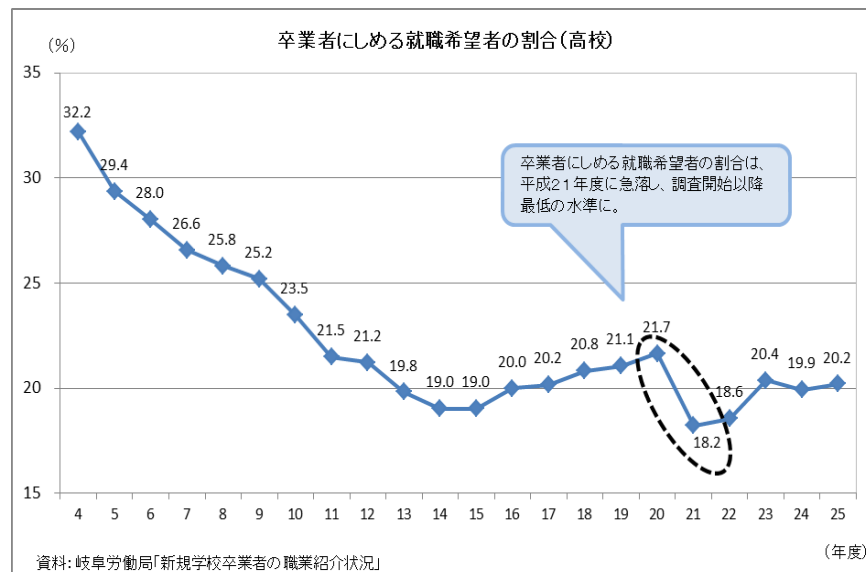
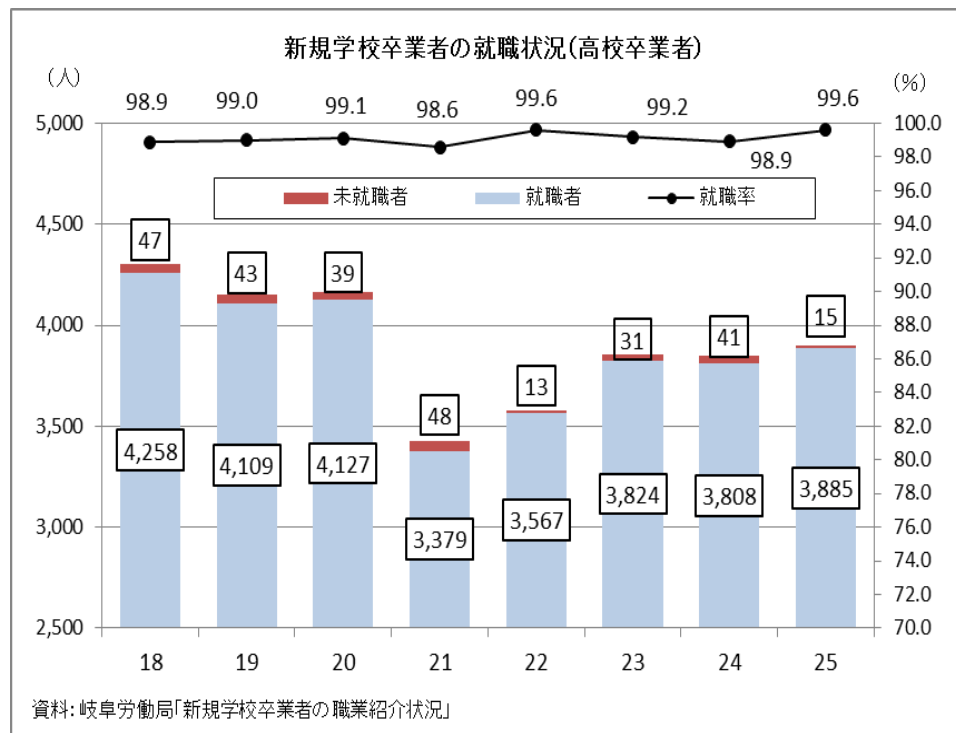
- ◆ 求人者数、求職者数はともに横ばい。
- ◆ 雇用保険の受給者数は横ばい。

## <ハローワーク中津川>

- ◆ 求人者数は減少、求職者数は増加。
- ◆ 雇用保険受給者数は増加。

# 雇 用(高校新卒者の就職)

○平成25年度の高校卒業者の就職率は0.7ポイント上昇し、平成22年度の水準まで回復。就職希望者割合が上昇し、求職者が増加したことで就職内定者数は増加傾向。



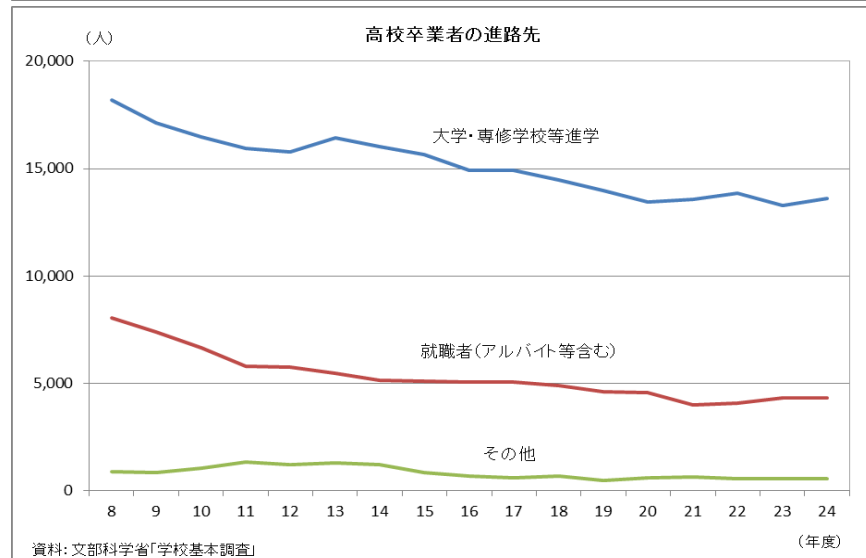
## 現場の動き(求人状況)

<ハローワーク岐阜、大垣、関、岐阜八幡、美濃加茂、多治見、恵那、中津川、高山>

◆高校卒業者の求人は増加。

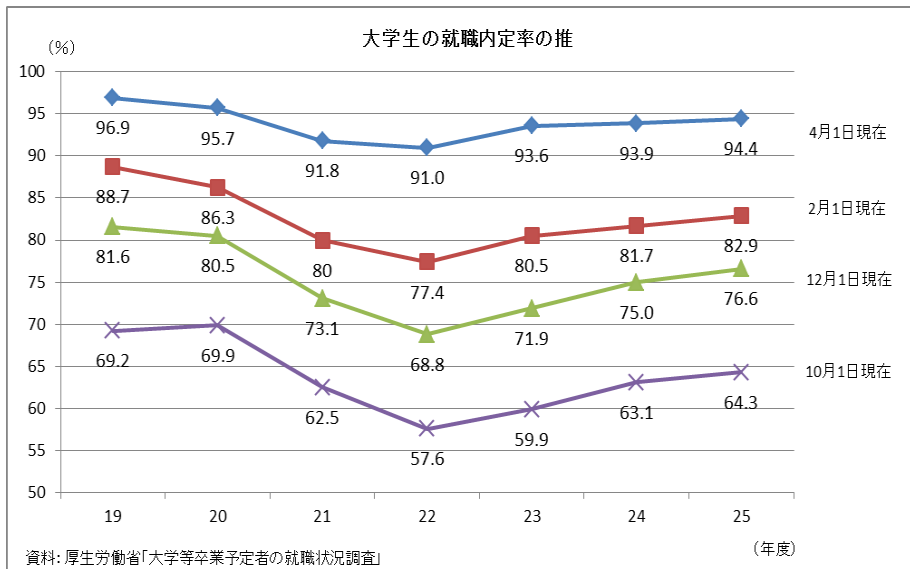
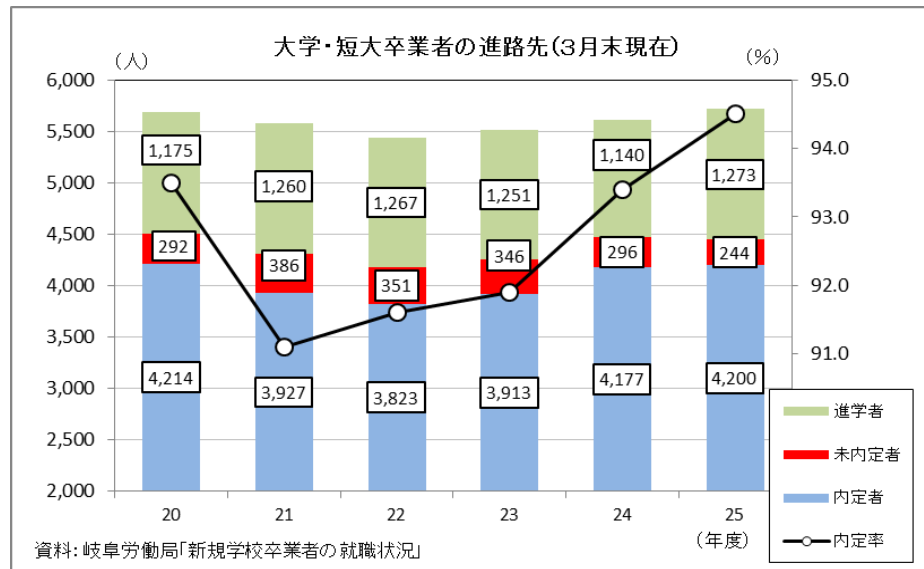
<ハローワーク揖斐>

◆高校卒業者の求人は減少。



# 雇 用(大学・短大新卒者の就職)

○平成25年度の大学・短大卒業者の内定率については、下げ止まりの兆しを感じられ、全国では過去5年間に於いて、岐阜県は過去6年間に於いて最も高くなった。  
また、岐阜県は全国と同水準まで改善。



## 現場の動き(15年度卒の就活状況)

### 【岐阜県内の主な大学】

- ◆9月以降、公務員試験受験者が結果次第で、一般企業への就活を開始する学生もいる。
- ◆8月末時点の内定率が経済・情報系で40%前後。
- ◆内定率は48~9%(学生報告ベース)。追加求人との問い合わせが多く、未内定の学生には個別対応で支援。

### 【愛知県内の主な大学】

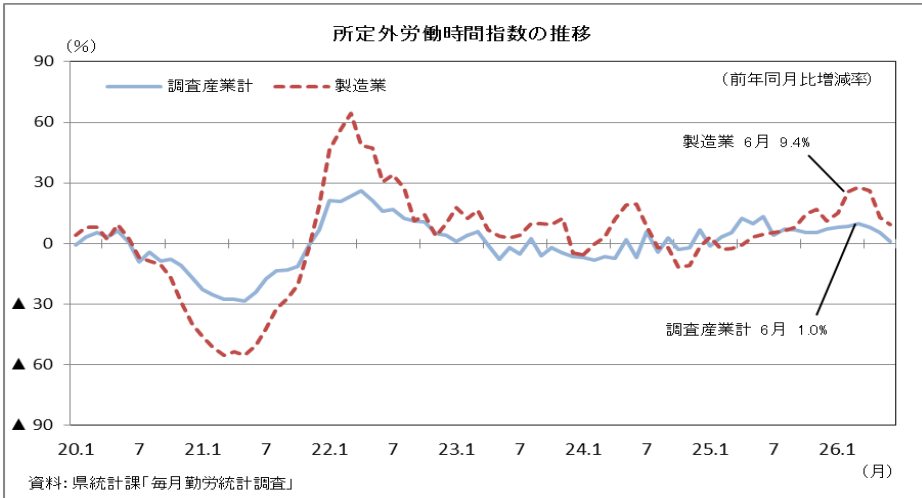
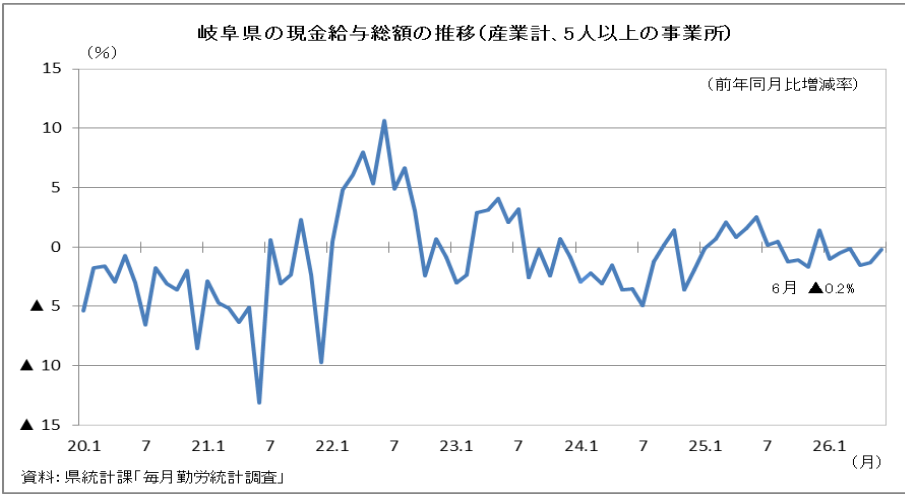
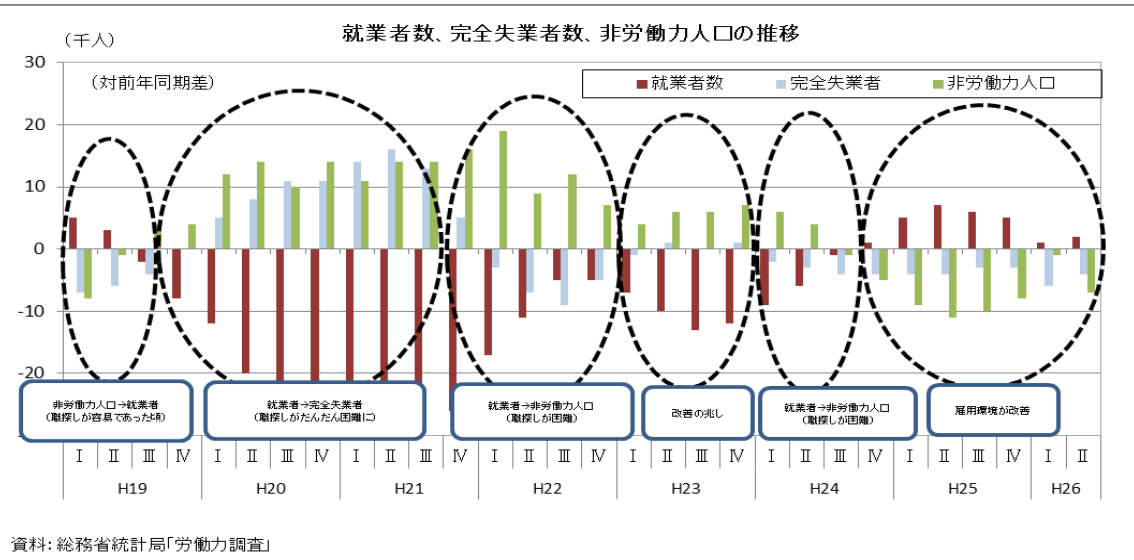
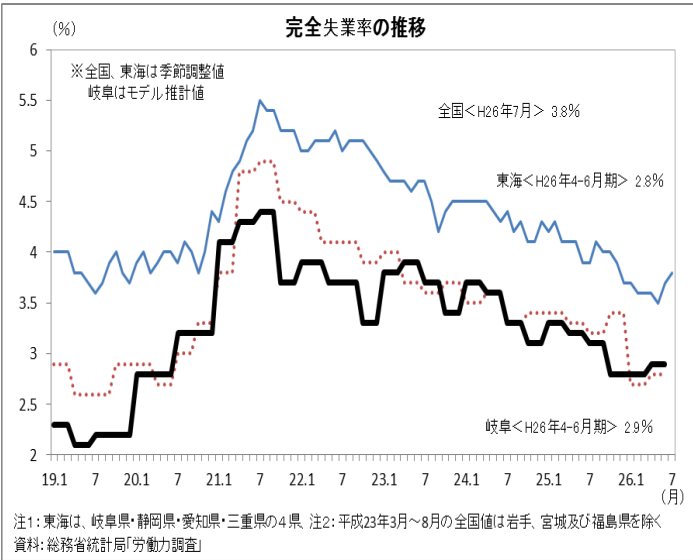
- ◆内定率は約65%強と昨年に比べると数ポイント上昇。内定をもらっているが、就活を継続している学生がいる。
- ◆内定率は40%強程度(学生報告ベース)。売り手市場と言われているが、昨年とほぼ同じ内定率で推移。上位1~2割の学生は、明らかに昨年より複数企業から内定をもらっている。
- ◆内定率は4年制が約39%、短大が約20%(学生報告ベース)。



# 雇 用(完全失業率)

○平成26年4-6月期の完全失業率は2.9%と前期より0.1ポイント上昇した。

○平成21年以降、職探しが困難な状況のなか、平成23年に改善の兆しを見せた。平成24年に再び厳しい状況となったが、平成25年以降に雇用環境は改善している。



# ＜経済・雇用の現状（総括）＞

- 製造業全体では、輸入原料の高騰によるコスト高が続いているが、輸送用機械関連を中心に受注や生産は好調を維持している。
- 直近の円安の動きについては、輸出を主とする企業の売上が増加している一方で、原材料価格及び燃料価格の上昇が続き、製造コストを押し上げている。しかし、販売価格への転嫁が進んでいない企業が多く、利益を圧迫している。
- 地場産業は、消費増税前の駆け込みで好調だった木工も生産が落ち着きつつあり、他の業種については、依然として消費意欲の減退や海外製品との競合、原材料費の値上がりなどにより厳しい状況が続いている。
- 個人消費について、天候不良の影響もあり客足は鈍かったものの、売上は前年と同等の水準まで回復している小売店も見受けられ、消費増税前の駆け込み需要の反動減は和らいでいる。
- 観光は、施設によってバラつきはあるものの、宿泊客数はやや前年を下回った。インバウンドは、季節的にピークアウトしている時期であるが、対前年を上回っており、トータルでは比較的好調を維持している。
- 雇用面では、製造業のみならず幅広い業種において、人材の確保に努める企業が多数見受けられるが、求職者は職種や条件を吟味する傾向にあり、人手不足が発生している。
- 企業の資金繰りは、改善傾向にある。新規融資実績は減少傾向にあるが、借入難易度は緩やかながらも着実に改善している。